

2018.5.19 中島参加

参加者 10 数名ほど

市民の主催で、読書会を兼ねて図書館の計画に関連する意見交換等があると伺い、参加してきました。会で話し合われたことや、この読書会のために様々な意見を集約したサイトの内容についてレポートします。

課題図書 『拝啓市長様 こんな図書館を作しましょう』

(アントネッラ・アンニョリ著、みすず書房、2016年)

1 論点整理

ユネスコの「学習の4つの宝」の紹介

「知る」ことを学ぶ 「なす」ことを学ぶ
「共に生きる」ことを学ぶ 「生きる」ことを学ぶ

2 課題図書レポート (その1)

4つの利用者層を想定

子ども (あかちゃん、ママ)・・・図書館と福祉 (保育や学童) を一緒に
中高生 (ヤングアダルト)・・・ビジネスパーソンから、生きたキャリア教育を
ビジネスパーソン
高齢者 ・・・・孤独にならないよう、交流が必要

アクティブラーニングが必要・・・Aiではできないところ

3 課題図書レポート (その2)

今回のために設置したサイトに寄せられた意見等のまとめレポート

※ 以下は当該サイトを見て、中島がピックアップしたもの

【新たな図書館像について】

- 時代の変遷とともに変わる図書館。IT。期待の多様化。図書館側もミッションを明確に。
- 未来の図書館を定義する4つの側面。「知」「発見」「参加」「想像」。それに対応するためには、複合施設であるべき。
- デジタルソースへのアクセス、様々なニーズを持った市民を刺激、新たな情報・娯楽、市民参加の「ハブ」、様々な価値観に出会い経験する場
- 情報を得る。気楽に過ごす。証明書の発行。結婚式。創造活動と文化消費のファシリテーター

【サービスについて】

- Aiによるレファレンス。

- レファレンスこそ人のネットワークで。
- デジタルデバイド問題解消に向けたサービスも必要。
- ソフト充実が重要。レファレンス以外にも、地域情報通、情報機器の指導できる職員。
- 知的余暇の活用。市民に高度成長を支えた俊英の専門家が多い（知的余剰者）
- 図書館のデータを使って、プログラミングの実験室を。
- 有償アプリを一括契約して提供しては。
- 図書館はネットワークで運営を。近隣他市との蔵書のシェアリング、直接協力貸出。
- 駅前や街角で予約図書を受取。宅配ボックスなども活用可。

【資料について】

- ふと手にして感動する本を。高価で個人で買えない図鑑や写真集も。
- まず図書館に iPad を 10 台置いて館内利用。
- オンラインデータベースは館内だけでなく外部からも使えるよう
- インターネットは図書館になり得ない。図書館には「手助け」がある。「確実さ」「安定性」「永続性」がある。
- 情報ツールを利用できる図書館。インターネットを活用すべき。
- 行政情報のオープンデータ化。自治体HPのアーカイブ。災害で失われないよう資料もアーカイブ

【施設について】

- 知識社会では議論、参加、協働、共に楽しむ空間の必要性が高まる
- 共有空間を増やし、蔵書は減らす。オープンスペース増。
- 防音が重要な部屋もある
- 身体性、空間の使い方、本の読み方に応える書架、ワクワクするところ、発見、夢想、想像力、全ての感覚を刺激
- 建てるなら注目される建築を。
- アウトドアライブラリー。公園の中で本の展示、イベント
- 市民が創造的体験をする環境にするなら、ステージまたは芸術的・文化的パフォーマンスが行われる空間は構造上の鍵

4 参加者による意見交換

- 選書方針の見える化を
- 受験のためではなく、生活に役立つ学びが必要
- 図書館の地域性に焦点が合っているか
- ファシリテーター的役割、人と資料、人と人をつなぐ役割が重要
- 施設に多額を投じるよりも、有能な図書館員がいて、相談にのってもらえる体制づくりが先
- 魅力のあるハコも重要（岐阜メディアコスモスなど）外からも見に来たくなる
- ラーニングコモンズのスペースも必要
- 新聞読まず、テレビも見ない。若者はスマホだけ。その中で図書館が地域の多世代にわたる情報プラットフォームになれないか。